

# 梅田八丁目複合施設 基本構想 【案】

令和3年12月  
足立区

# 梅田八丁目複合施設基本構想 目次

<b>第1部 基本構想</b> .....	1
<b>第1章 施設整備の背景</b> .....	1
1 これまでの経緯 .....	1
2 関連する行政計画 .....	3
<b>第2章 各施設の現状と整備に向けた基本的な考え方</b> .....	4
1 図書館 .....	4
2 子育てサロン .....	7
3 足立区NPO活動支援センター .....	9
<b>第3章 新たな複合施設について</b> .....	11
1 新たな複合施設の目指す姿 .....	11

## 第1部 基本構想

### 第1章 施設整備の背景

#### 1 これまでの経緯

足立区には令和3年度現在、区立図書館が15か所、本の貸出返却サービスを行う図書受渡窓口は7か所設置されています。このうち、区立図書館は昭和40年代から50年代に建設された建物が多く、老朽化や時代の変化に伴う機能改修のため、「足立区公共施設等総合管理計画」の基本的な方針に基づき、建替えまたは大規模改修が行われています。

現存する区立図書館の中で築年数が最も古い「足立区立梅田図書館」（昭和44年に中央図書館として開館）は、建物や設備の老朽化が著しいことから、建替えを前提とした施設の更新を検討してきました。

この梅田図書館と同じ建物内には、平成15年から「足立区NPO活動支援センター」が設置されましたが、老朽化や狭隘な環境等の課題から、再配置の声が上がっていました。

また上記2施設と同じ、西新井・梅島エリアにある「子育てサロン関原」は、地域の子育て世代に身近な施設として、平成20年に地域包括支援センター関原内に設置されましたが、この建物も老朽化が進んでおり、施設の更新が喫緊の課題となりました。

このような中、西新井・梅島エリアでは西新井駅西口周辺の再整備の動向と都営梅田八丁目アパート建替えに伴う用地創出などの変化の機会を捉え、令和2年3月に「西新井・梅島エリアデザイン計画」を策定しました。同計画では、東京都より当該創出用地の取得を目指したうえで梅田図書館を移転し、新たなコンセプトを持つ図書館として整備するとともに、老朽化した周辺公共施設を本創出用地に集約し、地域住民の利便性の向上を図ることを、優先事業の一つとして位置づけました。

以上のような経緯を踏まえ、「梅田図書館」「子育てサロン関原」「NPO活動支援センター」を同一施設に整備し、各機能の充実と連携を図るとともに、関連する行政計画や区の施策を踏まえ、新たな施設の目指す姿を明らかにしていきます。

■図表 1-1 梅田八丁目複合施設の整備予定地の概要



## 2 関連する行政計画

### (1) 足立区公共施設等総合管理計画

区の公共施設等は、平成 25 年 3 月に策定した「足立区公共建築物長寿命化指針」に、続いて平成 29 年 2 月の新「足立区基本計画」に基づき、同年 4 月に策定された「足立区公共施設等総合管理計画（以下、「総合管理計画」という。）」により長寿命化を図ってきました。

総合管理計画では、大方針として「持続可能な足立区の実現に向けた戦略的な公共施設マネジメントの推進」を掲げ、①サービスの变化に応じた施設の適正配置、②ライフサイクルコストを意識した施設管理、③資産の有効活用、の三つの方針を定めています。

### (2) 西新井・梅島エリアデザイン計画

区は、まちの特徴・魅力や求めるべき将来像などをエリアデザインとし、区内外に広く発信することで、地域の活性化や区のイメージアップにつなげる新しいまちづくりに取り組んでいます。

西新井・梅島地域では、本基本構想・基本計画に基づき整備する新たなコンセプトを持つ図書館のほか、西新井駅西口では交通広場の整備に向けた協議が進められており、駅ビル再整備によってもエリアの活性化が期待されています。また、同駅東口では防災機能を備えた西新井公園を将来的に整備していく方針であり、関原地域では防犯や防災といった分野に課題を抱えています。

### (3) 足立区読書活動推進計画（足立区文化・読書・スポーツ分野計画）

区では、新「足立区基本計画」に基づき、生涯にわたり学習・文化・スポーツ活動を実践するための個別計画として、足立区文化・読書・スポーツの 3 分野の計画（「足立区文化芸術推進計画」「足立区読書活動推進計画」「足立区運動・スポーツ推進計画」。以下、「3 計画」。）を一体的に策定しました。そのため、3 計画の共通理念を「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」と定め、分野ごとの取組みだけではなく、分野間の連携を強化することで、より一層、計画の効果的展開を図る、つながりを持った計画としました。

「足立区読書活動推進計画」では、区民の誰もが身近に読書に親しめるよう、「子どもの読書習慣につながる機会の充実」「区民の読書に関する関心を高め支える環境の充実」「読書活動を通じた人と人のつながりの形成」を施策の三本柱として、事業展開を図っています。また、従来型の分野別アプローチだけでなく、文化芸術、運動・スポーツ分野への関心や参加・行動にもつながるように、3 分野の連携にも力を注いでいます。

## 第2章 各施設の現状と整備に向けた基本的な考え方

本複合施設に集約される「図書館」「子育てサロン」「NPO活動支援センター」の各施設の施策の現状と課題を踏まえて、各施設の整備に向けた基本的な考え方を整理します。

### 1 図書館

#### (1) 区立図書館の現状と課題

足立区には、区内15か所の区立図書館と区内の駅近くに配置した7か所の図書受渡窓口で本の貸出・返却ができます。また、予約システムと配送業務の効率化で借りたい本を近くの図書館や図書受渡窓口で受け取れる仕組みを整備しています。

令和2年に策定された読書活動推進計画に基づき、図書館は新たな事業展開に取り組んでいます。

#### ア 読書活動の推進

「子どもの健康・生活実態調査」からは、読書が「子どもの生き抜く力」を高める事や、子どもの読書習慣には保護者の読書が影響することが明らかになっています。

このような乳幼児期からの読書習慣定着の重要性を踏まえ、「あだちはじめてえほん」事業やおはなし会等に取り組んでいます。小学校への出張おはなし会等の読書活動推進事業では、「読書通帳」を有効に活用しています。

また、子どもの読書活動を進めるためには、子どもだけでなく、大人も読書を楽しむことが重要です。

そのためには、子どもと大人が共に楽しく安心して読書活動ができる環境が求められています。

#### イ 図書館が提供する新たなサービス

足立区は令和3年に、新たな非来館型サービスとして「あだち電子図書館」を設置しました。サービス利用開始にあたっては、図書館向けに電子化されているコンテンツが限られている現状から、ターゲットを子どもに絞った特色ある蔵書構成としています。

また、館内には読書や学習の場として閲覧席を設置していますが、静かな環境を求める方やパソコン等の情報機器類を使用したい方、グループで学習に取り組みたい方など、利用者のニーズは多様化しています。現在はインターネットを介した調べ物が重要な手段となっているため、公衆無線LAN(Wi-Fi)や電源提供などの環境整備を強化しています。

さらに、令和4年にはICタグを導入し、図書館内だけではなく、施設内のどこにでも本を持ち出せて、読書やグループでの学習ができる環境を整備します。

これからは、障がいの有無や言語の違いなどにかかわらず誰もが使いやすい空

間整備と、学びの場として使い続けられるために、多様なニーズに対応できるサービスが求められています。

### ウ 新たなつながりの形成

読書を通じて他の分野への関心を喚起し、新たな行動につなげるために、図書館の利用者向けに文化、スポーツ分野と連携した3分野連携事業(「ちょいカル」「ちょいスポ」)や、「ベジタベライフ」「防災」などの区が推し進める施策と連携した展示・特集を行い、施策の周知および関連する分野の本の紹介を行っています。

今後はより一層、読書を通じて新たな興味・関心が生まれるように、様々な分野の活動につながる仕組みが求められています。

## (2) 新設の図書館の基本的な考え方

本複合施設の図書館は、これからの時代に求められる新しい機能や、ここでしか経験できない機能を持った新しい図書館として整備します。その基本となる考え方は以下のとおりです。

### ア 子どもとその周囲の大人のための図書館

子どもの頃から読書習慣を身に付けると、成長しても読書を通して言葉を学ぶことや知識を深めることができます。

本図書館では、子どもとその周囲の大人が読書に関心を持つことが必要と考え、その両者に読書の楽しさや大切さを伝えることを目指します。

### イ 誰もが気軽に使える図書館

生涯学び続けていく事が当たり前の社会では、誰もが気軽に学べる場や機会が重要になります。そのためにも、区民が、幼少期・青少年期・成人期・高齢期のどの段階でも利用しやすく、多世代交流により利用者同士がゆるやかにつながる、区民の居場所としての機能を持つ施設とします。

本図書館は、西新井・梅島エリアに限らず全ての区民のための新しい図書館として、開放的で入りやすく、安心して利用できる図書館を目指します。

### ウ 他の分野との連携を図る図書館

資料の展示方法の工夫やタイムリーな企画展示の実施により、利用者が読書をきっかけに、他の分野の活動を始めるための働きかけを行う施設とします。

文化・読書・スポーツの3分野をはじめ、様々な分野との積極的な連携を図り、区民の活動が多く分野に広がることで、3分野計画の共通理念「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」の実現を目指します。

## 1 図書館

### エ ICTを活用した図書館

AIの活用や通信環境の充実などにより、ICT（情報通信技術）は日々進歩しています。この進歩に関する動向を把握し、図書館の利用者の満足度向上につながる新たな技術の活用を検討します。

電子書籍の活用や動画の配信機能の導入、その他の利用者のニーズに合致する簡単で便利なサービスの提供に向けて、ICTを効果的に活用する図書館を目指します。



## 2 子育てサロン

### (1) 子育てサロンの現状と課題

子育てサロン（地域子育て支援拠点事業）とは、乳幼児およびその保護者が自由に集い、遊びながら交流したりスタッフに相談したりすることで、子育ての不安解消や負担感の軽減と育児の孤立防止を行うことを目的とした施設です。

足立区では、区内 65 か所に子育てサロンを設置しており、「商業施設等内の子育てサロン」「拠点型子育てサロン」「児童館子育てサロン」の3タイプに分類し、タイプ別に役割を分担しています。本複合施設には、「拠点型子育てサロン」に位置づけられる「子育てサロン関原」を移転し、相談体制が充実している拠点型の機能に加えて、複合施設の利点を活かし、他施設と連携することにより機能強化を図ります。

#### ア 幅広い利用者層への対応

梅田・中央本町地域の0歳から3歳児までの人口（3,300人強）は、微増傾向にあります。0歳から3歳児がいる世帯の約半数は家庭内養育世帯であり、0歳児においては70%強となっています。

このことから、日中の子育てサロン利用には需要があり、特に低年齢の利用が見込まれます。

家庭内で養育している利用者に加えて、平日働いている保護者等への対応や、出産前のプレママ・プレパパが利用するきっかけづくり、0歳～1歳児が利用しやすい環境整備など、幅広い利用者層への対応が必要です。

#### イ 絵本に触れる身近な場所として

子育てサロンでは、「あだちはじめてえほん」の引き換えを実施しています。また、乳幼児やその保護者に向けた読み語りのイベント等をとおして、絵本に触れる機会を増やすことに力を入れています。

しかし、1歳6か月児健診時と3歳児健診時の調査において、「ほとんど本を読まない」と回答した保護者は平成30年度以降増加しており、令和2年度の調査では約60%の保護者がほとんど本を読んでいないことが明らかになりました。

乳幼児から絵本に触れること、大人も絵本（本）を楽しめること、日常に時間がなくてもサロン利用時に読んでもらえる時間を作ること等をとおして、子育てサロンで絵本（本）を身近にしていく必要があります。

#### ウ 地域の拠点型子育てサロンとしての役割

梅田・中央本町地域にある「子育てサロン関原」は、（旧）区立中部保育園の建物で運営しており、老朽化や、近隣以外の方たちには場所がわかりにくいなどの課題があります。

この地域唯一の拠点型子育てサロンである「子育てサロン関原」は、利用者の状況を見極め、「見守る」「話を聴く」「ともに考える」「助言する」をとおして利用者との親近感や信頼感を構築し、相談機能に力を入れています。

## 2 子育てサロン

引き続きこの地域で、拠点型子育てサロンの特色である相談機能の充実を図ります。

### (2) 新設の子育てサロンの基本的な考え方

子育てサロンを、図書館を核とする複合施設内に設置することにより、他の子育てサロンとは異なる特有の機能を持たせていきます。また、拠点型子育てサロンの特徴である相談機能を拡充し、区民の誰もが気軽に利用できる子育てサロンを整備します。その基本となる考え方は以下のとおりです。

#### ア 新たな機能を加えた子育てサロンとして

複合施設内に子育てサロンを設置することにより、「ついで」の利用ができる利便性が図れます。さらに、子育てサロンを利用したことがない図書館等の利用者が、子育てサロンを知ることで、自分自身の子育ての問題等に「気づける場」、そしてスタッフや利用者同士の関わりから「問題解決できる場」としていくことができます。

さらに、子育てサロン利用者が複合施設内の活動に触れることにより、子育てや生活の視野を広げ、地域の様々な活動に関心持ち、関っていく契機の間とします。

#### イ 図書館内にある子育てサロンとして

図書館と子育てサロンの境界線を緩やかにすることで、図書館への敷居が低くなり利用しやすくなります。「静かにしなくてもいい図書館」のエリアがあることで、乳幼児も気軽に図書館を利用することができ、乳幼児期から、日常生活に図書館がなじみ深い存在である環境を構築します。

また、子育てサロンでは、図書館による読み語りイベントや本の紹介等のほかに、読み語りのスキルを習得した人たちなどとの「絵本を介したつながり」を子育てサロン機能にプラスアルファすることにより、利用者拡大を目指します。

#### ウ 地域の子育てサロンとして

拠点型子育てサロンである「子育てサロン関原」の機能を引き継ぎ、子育て支援員等の資格を持った専門スタッフを常時2名以上配置し、利用者に寄り添い、受容しながら子育て相談や子育ての仲間づくりの一助となります。

また、イベントなど地域の情報を提供し、地域の人たちと関わることで、地域の豊かな環境の中での子育てを支援します。

開設日も現在の週6日（月～土曜日）から7日（月～日曜日）に増やし、利用層を広げていきます。

さらに、イベント等をとおして、近隣にある「こども支援センターげんき」や「障がい福祉センターあしすと」とも連携を深めていきます。

### 3 足立区NPO活動支援センター

#### (1) 足立区NPO活動支援センターの現状と課題

足立区NPO活動支援センターは、地域貢献を目指すNPO法人および任意団体等への支援と育成を行い、地域社会の活性化を図ることを目的に、平成15年6月に設置された施設です。

令和3年9月には登録団体が211団体となり、この施設を中心に、福祉・健康・子育て分野に104団体、教育・文化・芸術・スポーツ分野に58団体、まちづくり・環境分野に25団体、平和・人権・国際交流分野に11団体、その他13団体が区内各地で活動しています。

#### ア 区民参加とプラットフォームの拡大

区内NPO団体を対象とした「令和2年度NPO団体へのアンケート調査」では、活動メンバーの確保が課題となっています。そのため、地域人材を発掘・育成する「あだち皆援隊」講座を毎月開催するとともに、NPO団体と区民の交流を図るNPOフェスティバルを年1回開催するなど、区民をNPO活動への参加に繋げる事業を実施しています。

また、「食の支援に関わる交流会」を開催して事業の課題や解決策などを共有するほか、子どもの学習支援や経験・体験に力をいれる団体とのマッチングを目的とした「子どもの未来プラットフォーム」の運営にも携わっています。

今後、地域活動の活性化を推進していくため、NPO活動への区民参加の拡大や、情報共有・事業連携を目的として更なるネットワーク化を図っていく必要があります。

#### イ NPO活動の多様化

多くのNPO団体は、コロナ禍の影響を受けて講座やイベントなどの対面の事業を自粛せざるを得ませんでした。

その中で、子どもの「食の支援」とともに「孤独・孤立防止」を目的としたお弁当の配布やフードパントリー事業など新規団体が立ち上がり、40団体がNPO活動支援センターに登録して活動を開始しました。また、コロナ禍でのコミュニケーションツールとして、子どもや高齢者に対するICT支援を行う団体も増えてきています。

今後は、コロナ禍で発現したこのような新たな課題に取り組む活動をはじめ、多種多様なNPO活動の支援を強化していく必要があります。

#### ウ NPO・区民・地域団体・企業・大学等の連携促進

地域の持続的な発展に貢献することを目的としてSDGsの取り組みを始めた企業から、NPOや地域団体との連携に関する相談を受ける機会が多くなってきました。

また、区内の大学が6大学となり、ボランティア活動に参加したいとの大学・学生からの要望が増えつつあります。

### 3 足立区NPO活動支援センター

これまで、NPO団体への支援を中心に事業を実施してきましたが、今後は、NPO・区民・地域団体・企業・大学等を結ぶコーディネーターとしての役割にも重点を置くことが必要となりました。

#### (2) NPO活動支援センターに求められる役割の基本的な考え方

本複合施設に整備するNPO活動支援センターは、NPO・区民・地域団体・企業・大学等の連携を強化し、協働・協創を促進していくための団体活動の拠点となる施設を目指していきます。

センターに登録されているNPO活動団体を中心とし、協創プラットフォームの拡大、地域活動人材の育成を通して、社会的課題の解決を図っていきます。その基本となる考え方は以下のとおりです。

##### ア 区民参加の促進

新施設では、複合施設の共有スペースなどで、登録団体によるICT支援・芸術振興・健康体操・まちづくりワークショップなど様々な分野のNPO講座を開催し、来館者がNPO活動を実際に見る、体感する機会を創出していきます。

また、地域活動人材を発掘・育成するための講座を開催し、受講生が協働・協創の実践者として活躍する場を提供していきます。

さらに、大学生や高校生のボランティアとの情報共有を図り、若年世代の活動者を増やしていきます。

##### イ 協働・協創の拠点

区内各地の公益活動情報を集めて活動分野・活動地域ごとに団体情報や活動事例をデータベース化するとともに、NPO団体・区民等と連携してSNSやICTを活用し、地域活動情報を発信する情報ステーションとしての機能を整備していきます。このように集めた地域連携の種となる情報を活用し、公益活動を実践するNPO団体を主体として、様々な活動分野でのプラットフォームを創出していきます。

##### ウ 協創プラットフォームの拡大

「生涯学習」「親子支援」分野等で図書館・子育てサロンと情報共有や情報発信などの事業連携を促進し、複合施設のメリットを活かした催しなどを開催していきます。このような活動を通じて、施設全体でNPO活動の周知・啓発および活動体験の場を設けていきます。

また、NPO活動支援センターがハブとなり、NPO・区民・地域団体・企業・大学等と連携して、既存の多様なプラットフォームをつなぎ合わせていきます。さらに、区内各地域での活動をネットワーク化して新たなプラットフォームづくりを行い、協創の総量を拡大していくことで、「住み続けたいまちあだち」の実現を目指していきます。

## 第3章 新たな複合施設について

### 1 新たな複合施設の目指す姿

区の調査※<sup>1</sup>から明らかになった、子どもの頃から読書習慣を身に付けることの重要性を踏まえ、**子ども**の読書活動推進の拠点として様々な事業を展開していくことが、本複合施設の大きな目的です。

また、複合施設の中核をなす図書館は、乳幼児から高齢者まであらゆる世代が訪れる施設です。近年の傾向として、単に読書をする場所としての機能だけでなく、机で勉強したりソファでくつろいだりしながら、安心して滞在できる**居場所**としての機能が求められていることが、区民座談会※<sup>2</sup>などを通じて明らかになっています。

あわせて、本施設は複合施設として、それぞれに特徴ある事業を展開するとともに、複合施設ならではの魅力を放ち、3つの施設が相乗効果を上げることが求められます。そのためには、協働・協創の視点を踏まえ、多様な主体が**つながり**、連携していくことが鍵となります。

したがって、図書館、子育てサロン、NPO活動支援センターが、各施設を密接に関連させて、様々な人や団体、活動が連携していくための視点を「**子ども**」「**居場所**」「**つながり**」とし、これらの3つの視点を踏まえ、本複合施設が施設全体として目指す姿を、以下のとおり定めます。

#### (1) 新たな図書館を核とする施設

読書活動推進計画に基づき区の施策を推進する新たな図書館を核とし、本を介して様々な人や活動がつながる施設を目指します。

図書館の基本的役割として、区民の多様なニーズに応じた幅広い資料の収集と提供や、質の高いレファレンスサービスなどの充実を図るだけでなく、これからの区立図書館の方向性を示す先進的な取り組みも行います。

また、複合施設全体を活用した特色のある資料の魅力的な展示などを通じて、利用者の好奇心をかきたてながら、本との新しい出会いをきっかけに、新しい興味や活動にもつなげていきます。

#### (2) 子ども達のたくましく生き抜く力を育む施設

令和2年3月に策定した「第2期足立区子ども・子育て支援事業計画」の基本理念を踏まえ、本との出会いを通じて、子ども達の健やかな成長、学び、自立を支える施設を目指します。

乳幼児と保護者が一緒に楽しめる絵本を豊富に取り揃えることや、子どもとその周囲の大人向けの読み語りイベントの企画・実施などを通じ、子どもの読書習慣の定着に取り組めます。

※<sup>1</sup> 「平成27年度子どもの健康・生活実態調査」及び「平成30年度文化・読書・スポーツに関する調査」

※<sup>2</sup> 「文化・読書・スポーツ計画策定に関する区民座談会」（平成30年度実施）

## 1 新たな複合施設の目指す姿

また、子ども達が安心して本に親しみ楽しく過ごせるように、図書館内でも話ができ、ふれあいが生まれる施設を目指します。一方で、静かに過ごしたい利用者のためには、落ち着いて読書や学習ができるゾーンを設けます。

### (3) にぎわいや安全安心を通じて地域に貢献する施設

エリアデザインの理念に基づき、地域の人々がまちの特徴・魅力として誇りや愛着を持てる施設を目指します。

開放感あふれる明るい雰囲気誘われ、通りすがりでも思わず入ってみたいくなる施設にしていくとともに、設備や運営における工夫や企画展示の充実、他の分野と連携したイベントの実施によって新たな人の流れを生み、地域の活性化にも寄与していきます。

また、避難所に指定されている近隣施設との役割分担を検討した上で、災害時の緊急避難建物や備蓄倉庫としての機能も担うなど、地域住民の安全・安心な暮らしに貢献する施設とします。

### (4) デジタル技術の進展に対応して常に進化する施設

区のDX化の方向性を柔軟に反映するとともに、GIGAスクール構想に基づく区のICT教育の指針も踏まえながら、利用者のニーズに合ったデジタル技術を取り入れ、その利便性を誰もが享受できる施設を目指します。

ICTを施設内の各所で活用することによって、利用者に多様な情報や非日常的な体験を提供し、家庭や学校などでの普段の生活では味わえない高揚感や期待感を抱かせる施設とします。

また、飽きることなく繰り返し訪れたいくなるように、技術の進展に対応した新しいサービスの提供を積極的に行います。

### (5) 協働・協創を推進する施設

区が新基本構想の理念に掲げている「協働・協創」を推進することで、持続可能なまちづくりに寄与する施設を目指します。

そのため、3つの施設の個々の役割やあり方を踏まえた整備を基本としつつも、利用者が互いの活動を身近に感じることもできる空間づくりを行い、各施設における活動を可視化することで、様々な連携が生まれやすい環境を整備していきます。

また、図書館・子育てサロンが実施するイベントやNPO活動支援センターによる団体同士のマッチングなど、ソフト面からも積極的に働きかけ、NPO・区民・地域団体・企業などの多様な主体がゆるやかにつながるきっかけづくりの場とします。

■図表3-1 連携のための3つの視点と新たな複合施設の目指す姿

